

特別展のお知らせ

文化功勞者

高木聖鶴 書の世界展

3月25日[火]~4月13日[日]

総社市在住の書家で、平成18年度の文化功勞者に顕彰された高木聖鶴氏のこれまでの歩みを紹介する展覧会を開催します。

高木聖鶴氏は、大正12(1923)年総社市生まれ。昭和22年に岡山の書家内田鶴雲氏に師事。昭和25年の日展初入選以降、同展において特選・会員賞・内閣総理大臣賞等を次々と受賞、平成7年に日本芸術院賞を受賞。日展常務理事等の要職を歴任し、日本書壇のリーダーとして活躍しています。

日本や中国の古典について研鑽を積み、優美さと鋭さを兼ね備えた独自の書風を打ち立て、現在の仮名作家として最高峰に位置することは衆目の一致するところ。

岡山県にとり、数々の輝かしい功績をあげた高木氏の存在は誇りです。本展ではバブリックコレクションを中心とする屏風・軸・額装・巻子作品およそ170点と、愛用の硯や墨を合わせて展覧いたします。

美しく芸術性の高い作品群を通して、聖鶴氏の書の世界をゆっくりお楽しみください。



百人一首カルタ

- 関連事業**
- ・**記念講演会 高木聖鶴氏**
日 時：4月6日[日] 13:30~15:00
当館ホールにて開催 先着210名 聴講無料
 - ・**ゲスト(書家)によるギャラリートーク**
講 師：勝瀬景流氏、森川星葉氏、長谷川鶴山氏
日 時：3月30日[日] 4月5日[土]、4月12日[土]
各日13:30~
※ギャラリートークに参加するには、観覧券が必要です。

■おもな出品作品			
春	紙本墨書	額装	1面 日本藝術院
万葉集「あらたまの」	紙本墨書	屏風装	6曲1隻 成田山書道美術館
夜渡る月	紙本墨書	額装	1面 式年遷宮記念神宮美術館
梅香	紙本墨書	額装	1面 太宰府天満宮社務所
爽涼	絹本墨書	額装	1面 新見美術館
古今和歌集抄	紙本墨書	額装	1面 総社市文化振興財団

平成20年度 特別展、特別陳列などのご案内

- 文化功勞者 高木聖鶴 書の世界展**
3月25日[火]~4月13日[日]
- 建築家 岡田新一と岡山県立美術館20年**
4月15日[火]~5月18日[日]
- 柚木沙弥郎 一わきあがる色と形**
5月27日[火]~6月29日[日]
- 千葉市美術館所蔵 浮世絵の美**
7月18日[金]~8月24日[日]
- 特別企画 近代備前の創造 藤原啓・雄父子展**
7月18日[金]~8月24日[日]
- 第59回 岡山県美術展覧会**
9月3日[水]~9月14日[日]
- 五姓田のすべて 一近代絵画の架け橋一**
10月7日[火]~11月9日[月]

- シャガールの版画 一高知県立美術館コレクション一**
10月7日[火]~11月9日[日]
- 第55回 日本伝統工芸展岡山展**
11月20日[木]~12月7日[日]

- その他「岡山の美術」展でも様々な特集展示やテーマ展を開催します。
- テーマ展 古典・物語絵の世界
テーマ展 柚木家をめぐる画家たち 一柚木玉郵・久我小年・柚木久太一
特集展示 小山富士夫の陶芸
テーマ展 版画の表現と技法
テーマ展 新たな出会いーおかやまアート・コレクション探訪
日本伝統工芸展共催企画 もっと伝統工芸 技と美の出会い 漆芸
特集展示 県美ボランティアによる企画 一花をめぐって一 など
- ※詳しくは平成20年度展覧会スケジュールリーフレットでご確認ください。

- 編集後記**
- 平成20年度の春は、当館は随分と賑やかになるだろう。特別展「建築家岡田新一と岡山県立美術館20年」の他、赤松麟作展、国吉康雄の特集展示、寄贈作品の紹介、過去20年間に開催された展覧会のポスター展示などが行われるからだ。これに加え、建築に関するワークショップや講演会、建築ツアーやフロアレクチャー、さらに岡山県立美術館検定など様々な催しも企画されている。
- 本ニュースではその全てを紹介しきれなかったが、別途展覧会スケジュールやチラシなどを参考にしていただき、ぜひ多くの人にご来館いただきたい。 [Y.T.]

- 美術館ニュース 80号**
- 発行：2008年3月
- 発行者：岡山県立美術館
〒700-0814 岡山市天神町8-48
TEL 086-225-4800
URL http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kenbi/index.html
E-mail kenbi@pref.okayama.lg.jp

寄贈作品紹介

工芸部門 一 小川一洋・國本敏雄 一

本年度、工芸部門で新たに寄贈を受けた作品は次の三点。小川一洋作「桐造象嵌卓」、國本敏雄作「神代杉木彩重箱」、同「黒柿線象嵌箱」。小川氏は岡山市生まれ。15歳で指物の世界に入り、昭和48年頃から伝統工芸に移り、象嵌技法を得意とする。國本氏は現真庭市生まれ。昭和59年から故大野昭和齋に師事し、伝統工芸の道に入った。ふたりとも岡山県展、日本伝統工芸展及び同支部展を中心に作品を発表。本県の木工界に指導的役割を果し、平成18年、そろって県指定無形文化財保持者の認定を受けた。このたびの作品寄贈は、それを記念してのもの。

「桐造象嵌卓」は、明るい木肌の桐の卓に、黒柿、黄楊、神代樺、神代杉、あわびが象嵌されたもの。瀟洒で現代的な作品。國本氏の「神代杉木彩重箱」は近年、独自に創意工夫した木彩技法による作品。「黒柿線象嵌箱」は昭和齋から譲り受けた材を用い、昭和齋の作品に倣い制作されたもの。

これらは「岡山の美術」の中で活用していきたい。 【学芸員 福富幸】



小川一洋「桐造象嵌卓」 縦30.0×横60.5×高11.5cm 本館蔵



國本敏雄「神代杉木彩重箱」 縦27.5×横14.5×高15.5cm (第52回日本伝統工芸展出品) 本館蔵

日本画部門 一 広瀬臺山 一

広瀬臺山(ひろせたいざん/1751-1813)は、江戸時代後期の津山藩士。文人画家としても知られ、岡山県南の浦上玉堂(1745-1820)に対し、岡山県北の代表格と言える。津山藩大坂屋敷に生まれ、31歳で江戸に移り、藩の重臣として勤める一方、関東の文人たちとの交友を深める。51歳で隠居し、61歳で津山に戻って63歳で亡くなった。山水・人物を得意とし、中国画譜を手引きとした作品が多いが、真景図の遺例もあり、細密な筆致で謹厳な画風を持ち味とする。このたび寄贈を受けた①「唐人物図」は、中国の仙人で桃を食べて仙術を得、齡800歳と言われる東方朔を描いた作品であろう。人物の表情や衣服の衣紋に至るまで、洗練された高い技術で描かれている。②は、浮世絵風の美人画で、類例のない珍しいもの。画面右中央に「応需模日本絵」の款記がみられ、依頼により描かれた肉筆浮世絵であることがわかる。中国画に倣った高踏的な作例がほとんどである中、このような世俗的な作品は極めて異例である。

当館では、これまで岡山ゆかりの文人画家として臺山を度々常設展や特別陳列等で紹介してきたが、館蔵品

はなく、今回の寄贈を契機に一層臺山の顕彰に努めたい。 【主任学芸員 中村麻里子】



①広瀬臺山「唐人物図」



②広瀬臺山「浮世絵美人図」

日本画部門 一 松島白虹 一

松島白虹(まつしまはっこう/1895-1937)は、現在の岡山市内山下に生まれ、東京美術学校(現東京藝術大学)日本画科に入学。結城素明に師事して人物画の研究に努め、第12回文展(1918)に初入選して以来、文展・帝展に入選を重ねる。女子美術学校(現女子美術大学)教授を務めながら制作に励むが、41歳の若さで亡くなった。病没前年に描かれた東京府養正館壁画「大政奉還」(現在神宮徴古館所蔵)が代表作として知られる。他に所在が判明する作品は少なく、岡山県内では第12回帝展(1931)入選作品「春苑午後」の人物部分「支那服を着た女」が県立岡山朝日高校に所蔵されている程度である。故に本作品の寄贈は、当館にとってきわめて喜ばしいことであった。

これは、岡山中学校時代の同窓生から息子の初節句用との依頼に応じて描いたもの。丁寧な筆致で穏やかな



松島白虹「山吹に鯉」



